

新型コロナウイルス感染症による 10 歳未満の死亡者数が急増 いまこそ、ワクチン接種で子どもの命と健康を守ろう

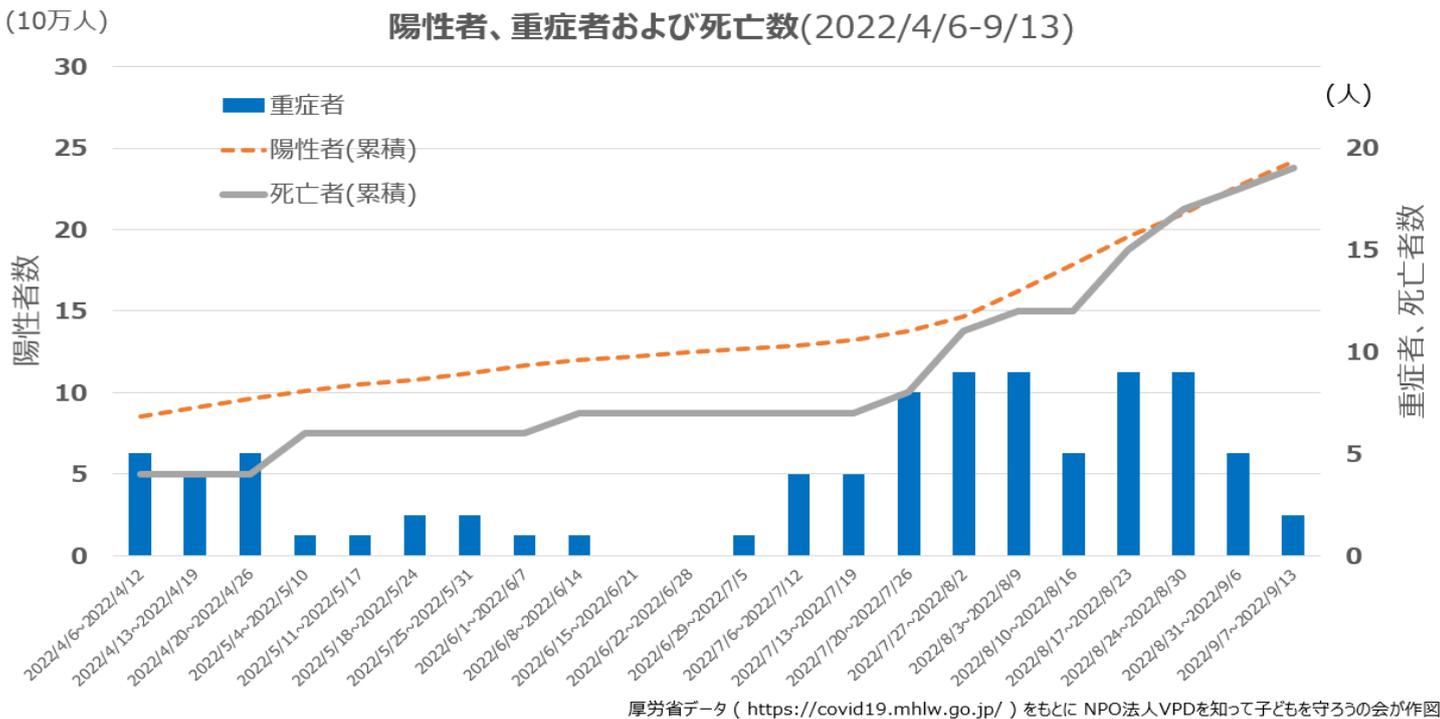
2022 年 9 月 20 日
 NPO 法人 VPD を知って、子どもを守ろうの会

NPO 法人 VPD を知って、子どもを守ろうの会（理事長 菅谷明則：すがやこどもクリニック院長）は、全国の小児科医等からなる会員とともに、VPD（Vaccine Preventable Disease：ワクチンで防げる病気）やワクチンによる予防の重要性を広く社会に訴えるとともに、すべてのワクチンの定期接種化を推進する活動をしています。

当会では、昨年 7 月に「12 歳以上のすべての小児」、今年 3 月からは「5 歳以上のすべての小児」に対して接種を推奨してきましたが、小児の死亡例の増加の懸念から、8 月 5 日に改めて「5 歳以上のすべての小児への新型コロナワクチンの接種を強く推奨する」というメッセージを公表しました。オミクロン株の流行後は小児の感染例が増加し、重症例、死亡例も報告されるようになってきました。死亡例は 3 月以降 19 例が報告され、このうち 12 例が 7 月からの約 2 か月での死亡例です。

10歳未満の新型コロナウイルス感染症

陽性者、重症者および死亡数(2022/4/6-9/13)



9 月 14 日には、国立感染症研究所の「[新型コロナウイルス感染後の 20 歳未満の死亡例に関する積極的疫学調査\(第一報\) :2022 年 8 月 31 日現在](#)」が公表されました。調査結果から、新型コロナウイルス感染症において、基礎疾患がある子どもだけでなく、健康な子どもたちも心筋炎や急性脳症等で急激な経過をたどり、死に至っていることが示されています。

小児の新型コロナワクチンは、基礎疾患の有無にかかわらず必要です。しかし、現実には「子どもは感染しても軽症で済む。感染しても他に感染させにくい。現在のワクチンのオミクロンへの有効性が下がっている。5-11 歳への接種は慎重に」という情報が先行したために、成人では見られなかったワクチンヘジタンシー（ワクチン忌避）が起こっています。また、医療者の見解が分かれているとの報道がありますが、当会会員を対象に 6 月に実施した調査では、医師会が新型コロナワクチンの接種を委託されている地域でワクチン接種に従事していない医師はわずか 5% でした。実態は、ほとんどの医療機関が小児へのワクチン接種を実施していると言えます。

[9 月 12 日時点の公表の接種率データ](#)では、5 歳から 11 歳の新型コロナワクチン 2 回接種完了者は 18.6%となお低い状況です。子どもの生命と健康を守り、子どもたちの元の生活、元気が笑顔を取り戻すために、5 歳以上のお子さんにはぜひ新型コロナワクチンを受けさせてあげてください。

問合せ先：NPO 法人 VPD を知って、子どもを守ろうの会事務局（中井、中谷）
 TEL&FAX：03-3545-6533 Eメール：info@know-vpd.jp